

「海に関する国民意識調査 2013 概要」

掲載誌・掲載年月：教育新聞 1307

日本海事センター企画研究部

研究員 野村撰雄

(公財)日本海事センターは、「海の月間」に合わせて「海に関する国民意識調査」を行っている。6回目となる今年の調査結果のうち、特に学校教育の観点から注目される10代の意識の特徴を簡潔に紹介する。なお、調査対象者は全国の15歳から69歳までの600名(男性302名、女性298名)である。

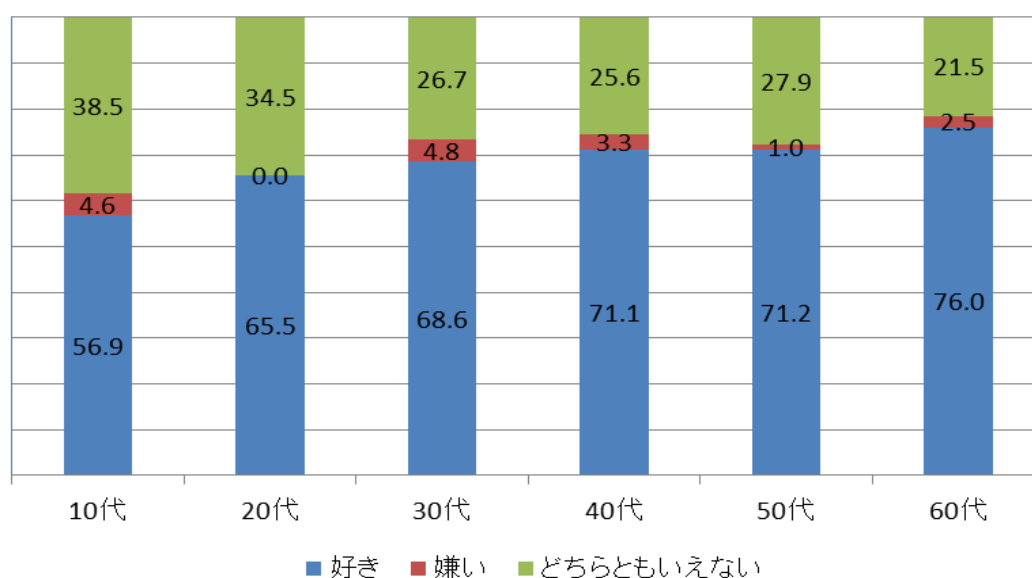
海は好き？

第一問「あなたは海が好きですか」は、「好き」「嫌い」「どちらともいえない」の三択で答えてもらうもの。

結果は、回答者全体で「好き」が69.3%(昨年の調査結果では69.8%)、「嫌い」が2.7%(同3.2%)、「どちらともいえない」が28.0%(同27.0%)で、昨年の調査結果とほとんど変わらない回答となった。

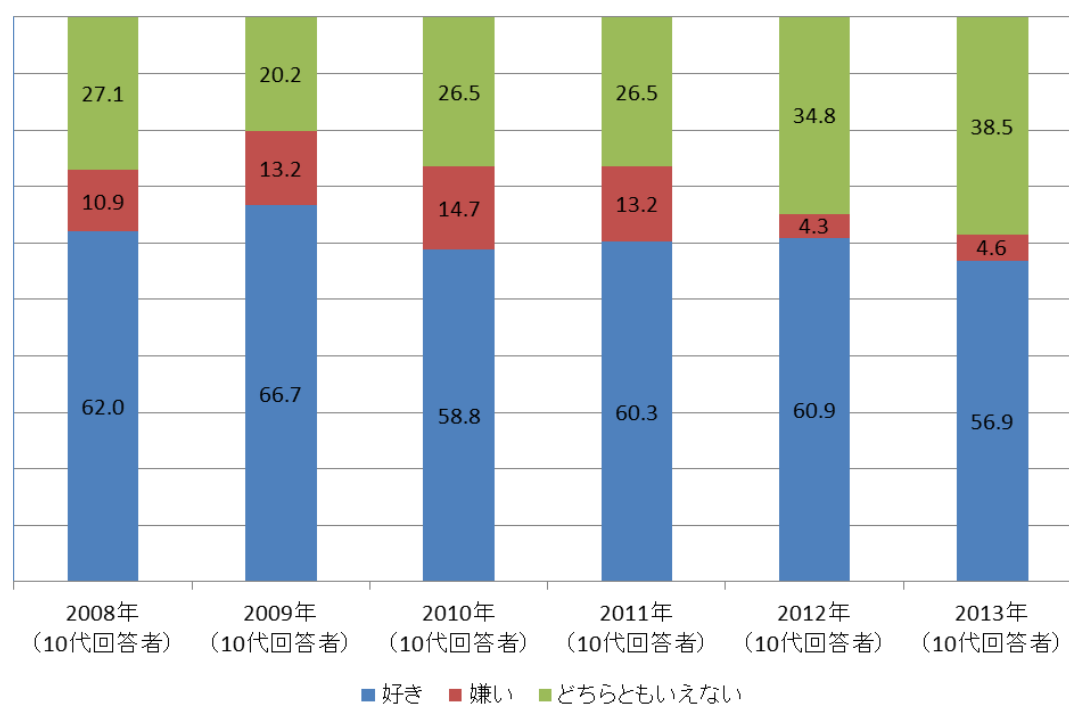
10代回答者について見ると、「好き」が56.9%、「嫌い」が4.6%、「どちらともいえない」が38.5%で、「好き」が年代別で最も低い(図1参照)。

【図1：海に対する好意度(回答者年代別)】



10代回答者の回答内容は、年によって若干変動が大きい。昨年に比べ、「好き」が4.0ポイント減少しているが、「どちらともいえない」が3.7ポイント増加し、「嫌い」は0.3ポイントの増加となっている(図2参照。2008年から2011年まではウェブ調査、2012年及び2013年は郵送調査によるもの。)

【図2：10代回答者の海に対する好意度】



10代の「どちらともいえない」の回答は、2010年以降、増加傾向にある。「どちらともいえない」の回答者の割合を年代別に見ると、10代38.5%、20代34.5%、30代26.7%、40代25.6%、50代27.9%、60代21.5%となっており、10代が最も高い。また、10代の「海の日・海の月間のイベント」についての認知度や同イベントへの今後の参加意向についても、10代回答者が年代別で最も低い。

海に関する教育体験は？

ここ4、5年で回答者本人又はその家族が体験したことのある海に関する教育についてきいたところ、体験があるとの回答は、回答者全体の25.2%で、体験内容は、「乗船体験」(10.5%)が最も多く、以下、「学校での授業」(8.3%)、「海洋施設や船の見学会」(7.0%)、「海に関する講座・教室」(2.8%)、「海に関する仕事をしている人による講演・講義」(2.3%)、その他(0.8%)。

10代回答者について見ると、33.8%が体験しており、その内容は、「学校での授業」(21.5%)が最も多く、「乗船体験」(15.4%)、「海に関する講座・教室」(6.2%)、「海

洋施設や船の見学会」(4.6%)、「海に関する仕事をしている人による講演・講義」(3.1%)、「その他」(1.5%)。

海事教育に取り組んで欲しい主体をたずねた設問への回答では、「学校」(全体では56.5%、10代回答者は46.2%)が「海関係の団体」(全体39.0%、10代回答者38.5%)や「地域」(全体36.7%、10代回答者23.1%)を上回っている。

海運について知ってる？

日本にとっての海運の重要性をたずねたところ、回答者全体で「重要だと思う」は、回答者全体で88.3%。

年代別の回答状況を見ると、10代回答者の「重要だと思う」は67.7%と年代別で最も低く、「わからない」の回答32.3%は年代別で最も高い。

10代回答者は、ソマリアなどの海賊についての認知度も最も低い(10代の「知らない」の回答49.2%。回答者全体では20.8%)。

この1年で船に乗ったことがある？

今回初めて過去1年間で船に乗ったことがあるかとの問いを設定した。全体では4分の1強(25.2%)が「乗ったことがある」とし、男性の方が女性より若干多かった。

年代別では10代回答者が最も低く、13.8%であった。船に乗ったことがあるか否かも海への親しみを深める上で重要と考えられる。(一社)日本旅客船協会の会員の中には、子どもの日などに子ども割引を導入する動きが出ている。